

2016 年度活動報告 CJP 授業：レギュラープレ 1 B

牧野 由紀子（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本科目は、日本語学習経験の全くない現代日本専攻の履修者に対して選択科目として開設された、ひらがなカタカナを学ぶためのクラスであり、授業数は週 1 コマ（90 分）である。「クラス終了時にすべての学生がひらがなカタカナの読み書きができるようになること」を目標とし、文字の習得に徹した。学生は日本語をほとんど理解できないため、授業ではシンプルな英語を使い、随時、パワーポイントや英文の資料を用いた。

2. 授業内容

テキストは『一人で学べるひらがな かたかな（英語版）』（スリーエーネットワーク）を使用し、書き方練習シートや宿題はその都度作成した。第 1 ステップとして 50 音図を何度も発音することで 50 音をまず音で覚え、その後、ひらがな（全 4 回）、カタカナ（全 4 回）を練習した。毎回の授業内容は以下のとおりである。

まず、①前回の授業のクイズ実施、②その日に学習する字について書き順など書き方を説明した。学生は配布した練習シートを使って各自、書く練習をし、教師が巡回して不備があれば修正を指示した。③みんなで字カードを読んで復習したのち、④その字を使った単語（テキストにあるもの）について、単語の読み方と意味を確認した。⑤ひらがなの学習が半分くらい進んだあとは、その定着を図るため、ビンゴやカルタなどのゲームを行った。特に既習の字を使った自家製カルタ（学生が各自 3 枚ずつ用意してきてそれを合わせる）や絵カードを使ったカルタはいい練習になるだけでなく、とても楽しくクラス中が盛り上がった。履修段階に合わせて実施できるのもよかった。

宿題は①書き方シートの完成、②practice sheet（授業中に習った単語を書く練習をするもの）、word hunter sheet（町で見つけたひらがなやカタカナのことばを自由に書いてくるもの）とした。また、クイズは宿題の practice sheet から出し、ディクテーションクイズも行った。

3. 成果と今後の課題

ほとんどの学生がひらがなカタカナの読み書きがほぼできるようになり、目標はほぼ達成できたと思われる。ただ、まだ十分に身についたとはいえず、読む練習を増やすなど、さらなる定着練習が必要である。日本語に触れるのが全く初めての学生（おもに欧米系）と漢字を書き慣れている学生（おもにアジア系）とでは理解や習得の速さにかなり差がある。今回は全くの初心者にターゲットを合わせたため、アンケートでも「よく練習できた」という声がある一方、習得の速い学生にとっては物足りない面もあったようだ。そうした学生がより学習を深められるようなタスクも必要である。また、初心者が楽しく学べるためにはゲームの力が想像以上に大きいことがわかった。今後もさらに工夫して積極的に取り入れるべきだと思われる。